

宮之阪中央商店街

(宮之阪中央商店街振興組合)

大阪府枚方市

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

商店街サポーター制度で地域貢献、担い手確保。
謝礼には「宮サポチケット」を用い、地域経済の活性化へ。

基本データ

所在地	大阪府枚方市宮之阪
人口	約 40 万人 (枚方市)
電話/FAX	072-848-4298 / 072-848-4298
URL	http://miyanosaka.top
会員数	152 名
店舗数	152 店舗 (小売業 50 店、飲食業 26 店、サービス業 40 店、金融業 8 店、不動産業 6 店、医療サービス業 17 店、その他 5 店)
商店街の類型	生活支援型
主な客層	高齢者、主婦 / 60 歳代、70 歳代以上

商店街概要

当該地域では、昭和 45 年の大型スーパー出店に伴い、その周辺に金融・保険・医療機関や小売店が進出したことをきっかけに街並みが形成され、昭和 48 年には「宮之阪中央商店会」が「明るい街づくり 暴力や火災のない街づくり」をスローガンに掲げ発足した。

平成 11 年には「0 才から 100 才までのお客様に愛される商店街」を目指し「宮之阪中央商店街振興組合」として法人化。150 余の店舗・事業所が結集する枚方市内最大の商店街振興組合へと発展したが、大型小売店舗の進出や商店街周辺住民の高齢化により、近年の来街者は年々減少傾向にある。

取組の背景

地域コミュニティの担い手として

宮之阪中央商店街では、大規模小売店舗立地法の施行に伴う商圏内への大型小売店舗の出店や、近隣住民の高齢化による来街者の減少が課題となっており、「モノやサービスを提供する買い物拠点としての商店街」では大型店に対抗することは困難と考えていた。そこで、単なる買い物拠点としてだけでなく、地域コミュニティの場である商店街の特性を活かし、「地域になくってはならない商店街」を実現することが重要と考えた。

まずは商店街の現状等を分析するため、平成 25 年 11 月に組合員と商店街イベント開催時の来街者を対象に、課題の認識や商店街イベントの利用状況に関するアンケートを実施。その結果、同組合員の経営形態にフランチャイズや家族経営が多いことから商店街活動の人手不足も課題であることが判明した。

取組の内容

「ちょいサポ支援」で地域貢献の輪を広げる

まず、来街者減少の課題解決に向けて、商店街では、福祉及び商業分野、地域活動等の専門知識がある団体と連携した会議を平成 27 年 5 月から開催(平成 28 年からは協議体として「宮ノサポ会議」とした)。会議では、子どもから高齢者までの多世代が交

流可能な場を商店街が提供し、買い物以外の来街目的を創出する取組が必要という結論に至った。



宮ノサポ会議の様子

これを受け、様々な高齢者向けイベントの実施や、近隣住民等による商店街活動のボランティア(商店街サポーター)が高齢者等の小さな困り事を手伝う「ちょいサポ支援」を創設。来街の動機付けを高めるとともに、高齢者等に対する幅広いサポートを可能とした。この「ちょいサポ支援」は、支援の謝礼として商店街での買い物に利用できる「宮サポチケット」を発行する仕組みで、地域経済の循環にも寄与している。

商店街活動の人手不足という課題解決についても、商店街サポーターを募集。さらに、商店街サポーターの活動の拠点及び多世代が交流する場として、商店街内の空き店舗を改装し、平成 28 年 2 月に「宮ノサポ」を整備した。

「宮ノサポ」は、カフェの運営や様々なイベントを

開催する場であるとともに、貸しスペースとして地域住民にも活動場所を提供している。また、店内の掲示板には商店街サポーターによる「ちょいサポ支援」の手伝いメニュー（パソコン入力、草むしり、イベント手伝い等）を書いたカードを貼っており、来店者は希望する内容のカードがあればスタッフに申し出てその場で実施日時を決められる。手伝いの謝礼は、利用者が「宮サポチケット」を購入して商店街サポーターに直接渡す仕組みだ。

この方式により、商店街サポーター個人ができた支援内容を掲示板で広く周知することができおり、高齢者を中心に住民同士の新たなコミュニティを生み出すことにつながっている。

さらに、「宮ノサポ」で開催している「子どもいきいき笑顔食堂」や「宮サポカフェ」等は、子どもから高齢者まで様々な年代の居場所づくりとして地域に貢献している。



「宮サポチケット」



ちょいサポ掲示板

取組の成果

商店街の取組が大型店にまで拡大！

商店街サポーター等の取組については、「宮ノサポ会議」の中で実施報告会を定期的に行い、取組を評価するとともに活動計画を見直し、改善策を実施することで、PDCAを回している。

また、「宮ノサポ会議」とは別に、商店街サポーターの定期的なミーティングも開催しており、事業の周知状況や活動内容に関して意思疎通を図り、改善の意見等があれば翌月に反映させるなどの対応を行っている。例えば、商店街サポーターの募集について、地域の回覧やポスター掲示では周知がなかなか進まないという課題に対して、「商店街サポーター自らによるボランティア実績の掲示」、「利用者から未利用者への声かけの協力を求める」という改善策を実施。その甲斐もあって、商店街サポーターは取組を始めた当初の10名から現在では35名にまで増えている。

現在は、商店街サポーター制度、宮サポチケットともに商店街近隣地域に定着しており、チケットが利用できる店舗は40店舗（大型スーパー内の専門店を含む）まで拡大している。

実施体制

「宮ノサポ会議」のメンバーは、商店街、商店街サポーター、地域団体（NPO）、枚方市社会福祉協議会、地域包括支援センター松徳会、枚方市商工振興課、北大阪商工会議所、一般社団法人ステップフォワード、関西外国語大学ボランティアクラブひまわりで構成されており、明倫校区コミュニティ協議会と連携して活動を行っている。

また、活動拠点である「宮ノサポ」の貸しスペースの使用料や地域のコミュニティの場として開催している「宮サポカフェ」の売上、寄付金箱の設置による寄付、枚方市社会福祉協議会の市民ふくし活動チャレンジ基金の助成の一部活用（平成29年度から）など、同組合会費以外にも活動費を捻出しており、本活動を適切かつ継続的に実施する体制が組まれている。

キーパーソンからのコメント



宮之阪中央商店街振興組合
写真左より
副理事長 永濱 旭
理事長 高瀬 巖
事務局 今道 美絵
商店街サポーターコーディネーター 松宮 信代

みんながいきいきと笑顔で集える拠点づくり

「宮ノサポ」を拠点とした活動から商店街サポーター同士の絆が生まれ、サポーターがいきいきと笑顔で活動していることに気付きました。現在、「宮ノサポ」は、ボランティアだけでなく、サポーターによるギターや麻雀、囲碁等のサークル活動の拠点としても利用が増えてきています。そうした中で、子ども食堂へ来てくれる子どもや高齢者などともふれあいが深まっており、地域と商店街の横のつながりはますます広がっています。

「宮サポチケット」で買い物支援

「ちょいサポ支援」の支援謝礼に利用している「宮サポチケット」は、地元知らないお店の発見や来店促進につながっており、導入店・利用者双方からの喜びの声が届いています。また、「宮ノサポ会議」メンバーである関西外国語大学ボランティアクラブひまわりの学生が、友人と商店街を訪れ、「宮サポチケット」で買い物を楽しむ姿が見られるようになっており、宮之阪中央商店街は「地域になくてはならない商店街」に日々、変化しています。